



初等部だより 1月号

鎌倉女子大学初等部

平成29年1月10日

第 11 号

新年、おめでとうございます!

部長 松本安博

新年、おめでとうございます。本年も皆様にとりまして、穏やかで健やかな一年となりますことを心より祈念申し上げます。

今年は曜日まわりの関係で、19日間と比較的長い冬休みになりました。そこで、私も故郷でのお正月を少しゆったりと過ごすことができました。

今年も元日には、ご先祖のお参りに行き、少し回り道をして学問の神様、菅原道真公が祀られている近所の天神様をお参りしてきました。参道の両側には、いろいろなお店が出ていてどこも大賑わい、境内は人、人、人で溢れていました。お店から聞こえてくる声や音、おいしそうな匂いに包まれながらのろのろ歩きでどうにか本殿に近づくことができました。やっとのことでたどり着いた本殿ですが、後に続く人のことを思いますと、長く手を合わせているわけにもいきません。ここでは自分事はさておき、今年も卒業を間近にしている6年生のだれもが、それぞれにとって大切な中学校に進学していけることを念じました。そして、在校生とともに、新入生も含めて初等部生の一人ひとりが心身ともに健康で、健やかに成長していくことを願って刻みましました。

私は年頭にあたり、たくさんの方のことを思い願って念じることも大切ですが、何事もその実現に向けて努力をすること、ベストを尽くすことこそが大切と考えます。勉強を通して、スポーツを通して、学校生活を通してコツコツ努力することや日々ベストを尽くすことの大切さを学ぶことが肝要と考えます。

昨年12月、講義の一環として本学の大学院生が授業を参観する機会がありました。その授業は、「1枚の絵から創造を広げて、表現の工夫を楽しもう!」をテーマに、自由に題を付けて短編の物語を作文する国語の授業でした。その絵は、庭に面した窓ガラスが割れており、その傍にボールが1つ落ちているものでした。

さすがは6年生です。その多くがボールは庭から当たって窓ガラスが割れたと考える中で、部屋の中からボールが当たって窓を突き破ったと想定する児童もいました。題名もいろいろで、ウイットに富んでいました。驚くことがたくさんあった授業でしたが、授業を参観していただいた大学の先生や大学院生が一番驚かれたことは、45分授業(実質20分間)の中で児童が作文した物語の記述量と文書構成力でした。私は、その理由は、1年生から6年生までの初等部のカリキュラムポリシー「国語科を超えた言語力を育成する授業」(6つのカリキュラムポリシーの1つ)にあると考えます。初等部の教育に関心を持ち、訪問して下さる皆様からも廊下や教室内の掲示物の字の美しさと記述内容について、お褒めの言葉をたくさんいただきます。6年生のこの授業は、もともと素晴らしい文書力があつたというよりは、これまでの日々の努力とその積み重ねの結果と考えます。

私は、今年も初等部生の努力する姿やベストを尽くす姿を見出すとともに、たくさん褒めていきたいと思ひます。

今年、「酉年(とりどし)」です。酉年は収穫や成長、成果、繁栄の年とも言われています。

初等部職員一同、初等部生一人ひとりの健やかな成長を願って、三学期も力を尽くして参りたいと思ひています。

何卒、よろしくお願ひいたします。

